



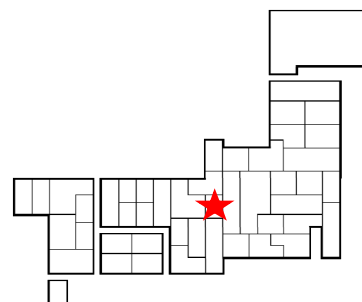
ロータス満開で地域と遊休農地をデザイン！

ビジネス・イノベーション部門

農福連携

6次産業化

棚田保全



ながはまし

滋賀県 長浜市

【概要】

- 地域の高齢者や障がい者などが、耕作放棄地の棚田で花蓮を栽培。蓮の生花の京都市内高級料亭やリゾートホテルへの出荷、ジャムやお茶等の加工品の開発・販売により、年間を通じた作業を実現。
- 中高生等への体験学習の機会提供の他、地方自治体・自治会・大学・JA・金融機関等との連携強化により活動を拡大。

【成果】

- 加工品等の売上は、約700万円（平成30年度）から約2,900万円（令和4年度）に増加。地方自治体や観光協会等と連携したツアーやSNSでの発信により、蓮園への来客数は、約200人（平成30年度）から約8,000人（令和4年度）へ増加。
- 地域の高齢者を中心に運営する農家カフェを開設し、高齢者の居場所や生きがいづくり、地域活性化に寄与。



蓮の花びらの収穫後の仕分け作業



蓮の主力商品、蓮の葉茶と蓮ジャムを販売



蓮の花の収穫 高校生就労体験



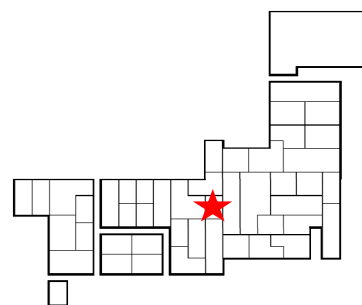
世界農業遺産の里山を米づくりで守る

コミュニティ・地産地消部門

農業

食育・教育

農村環境・景観保全



ながはまし

滋賀県 長浜市

【概要】

- 農業のイメージをポジティブに変え、地元の里山を保全し、一次産業全体を盛り上げるため、農業体験の開催や、突然街中でおにぎりを振る舞い、お米の美味しさ・米づくりの楽しさを伝える「ゲリラ炊飯」と呼ばれる活動、SNSによる情報発信に取組む兼業農家集団。
- 耕作放棄地等を中心に作付け、化学肥料を使わず「レンゲ農法」で米づくりを実施。

【成果】

- 約500aあった耕作放棄地等が、約200aまで減少。「ゲリラ炊飯」などの活動を通じて、ブランディングとファンの獲得に貢献し、米の販売単価を200円/kgから600円/kgに引き上げ。
- 田植え体験、稲刈り体験を年間30回開催（令和4年度）し、全国各地から年間約600人参加。地元の魅力、米づくりの楽しさを発信するYouTubeチャンネルへの登録者数を年々増加させ、月間総プレビュー数24万回を達成。



ゲリラ炊飯で街中でおにぎりを振る舞う様子



耕作放棄地復活のため圃場を改善



農業体験イベントには沢山の人が参加

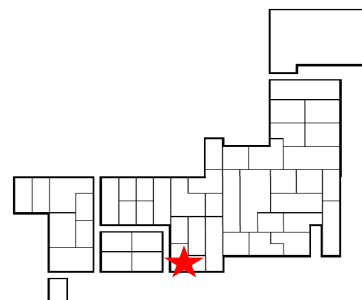


持続可能な林業～木を伐らない林業～

ビジネス・イノベーション部門

林業

環境保全（農林水産業・食品産業）



たなべし

和歌山県 田辺市

【概要】

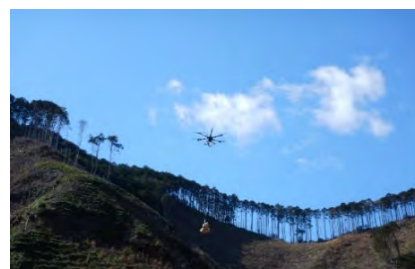
- 造林育林業を柱とし、地域の子供たちや高齢者が拾ったどんぐりを活用して里山再生を行う、持続的な環境配慮型林業を実践。苗木づくりは、障がい者雇用施設等と連携して実施。
- 地元学校への緑育事業や、市との災害時資材運搬協定締結等の地域貢献活動の他、林業DX（自社開発大型ドローンによる運搬の省力化）や働き方改革により、働きやすい林業を構築。

【成果】

- 植栽面積は、66ha（平成30年度）から80ha（令和4年度）に拡大し、売上高は、1.8億円（平成30年度）から2.6億円（令和4年度）に増加。また、従業員数は、15人（平成30年度）から27人（令和4年度）に増加し、移住者も含めた地域の雇用創出に貢献。
- 社内で育てた研修生や従業員が9都県に7社起業するなど、地域を越えた活性化や林業の発展に寄与。



植栽完了現場写真



ドローン運搬写真



地元中学校での緑育事業風景



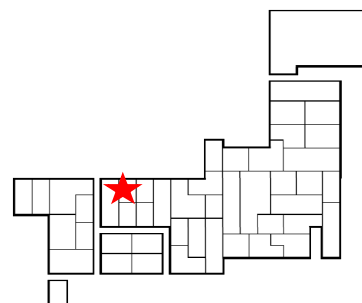
— 隠れた資源を磨き上げ域内消費拡大へGO！ —

コミュニティ・地産地消部門

水産業

地産地消

企業との連携



おおだし
島根県 大田市

【概要】

- 漁獲高の大半が県外に出荷され、市内でほとんど消費されない大田市産あなごの大きさと美味しさに着目して、10年間で14%の人口減少が進む大田市の活性化を目指し、「大田の大あなご」の名称でブランド化に取り組む。
- 大きくなるにつれて脂質が増え旨味成分が増していることをデジタル検証によって確認。観光DMOや飲食店等を巻き込んで協議会を形成し、料理コンテストの開催や出前授業を通じて大あなごの魅力を継続して発信。

【成果】

- 市内のあなごの取扱量は、0.2 t（平成30年度）から38 t（令和4年度）へ増加。料理提供店舗は、2店舗（平成30年度）から30店舗（令和4年度）に増加。市場での競り値はかつて500円/kgだったが1,300円/kg程度で推移。
- 食品加工業者に商品開発を依頼し、加工品数は、1種類（平成30年度）から19種類（令和4年度）へ増加。飲食店と加工商品の年間売上は、270万円（平成30年度）から5億円余（令和4年度）に増加。



行列ができる飲食店で提供されるあなご天井



あなご料理コンテスト 入賞作品



小学校での出前講座



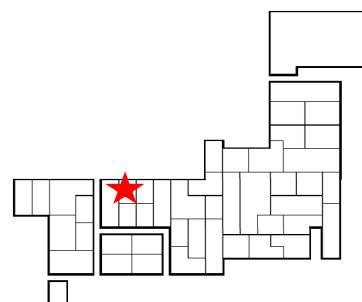
— うちのヒツジは空を飛ぶ！羊毛製品を世界へ —

個人部門

農業

6次産業化

女性の活躍



おおだし
島根県 大田市

【概要】

- 平成22年から羊毛加工の技術を学び、平成28年に創業。平成30年に島根県大田市に移住して、ヒツジの飼育を開始。飼養のノウハウを蓄積しながら自家羊毛製品を開発。
- 農地（5反）を取得し米を作り、羊のフンや敷藁を堆肥化して活用。生産した米は「ヒツジ米」として販売。羊の放牧による除草や、自治会と共同で毛刈りイベントを開催。

【成果】

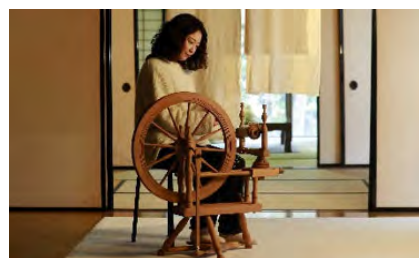
- 令和5年2月、パリで開催された世界最大のアパレル生地見本市（プルミエールビジョン）に自家羊毛製品を出展し、世界のファッション界へPR。大田市のふるさと納税返礼品にも登録される。
- 雑草が餌になるため、近隣住民と連携して中山間地に放牧することで遊休地が活用され、里山の景観維持に貢献。年1回の毛刈りイベントに100人程度が参加する他、遠方から放牧風景の見学者が増加。



ヒツジの放牧風景



ふるさと納税返礼品のウールソックス



笠木 真衣



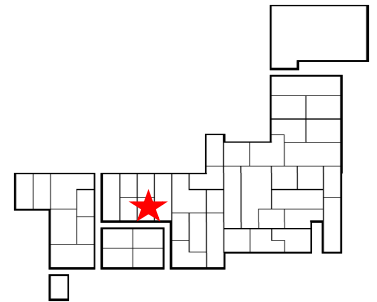
完全受注漁による持続可能な漁業

個人部門

水産業

環境保全（農林水産業・食品産業）

教育機関との連携



たまのし
岡山県 玉野市

【概要】

- ECサイトやSNSを活用して消費者から事前に注文を受けて、必要な魚だけを獲る国内初の「完全受注漁」を実施。
- 水産資源の乱獲、価格の不安定性、漁師の過労問題、後継者不足問題といった、現在の漁業の課題解消への取組。

【成果】

- 操業時間・軽油使用料は、12時間・約6,500ℓ（平成30年度）から6時間・約5,400ℓ（令和4年度）に削減。受注漁による売上は、約360万円（平成30年度）から約800万円（令和4年度）に増加。
- 売上を落とさず削減された労働時間を活用し、地元の漁業協同組合との連携による漁業体験の提供や、市内全中学校の社会科教員の視察受入等、地域の活性化に寄与。



玉野市の全中学校社会科教諭 邦美丸視察



鮮魚セットを作っている様子



鮮魚セットを持つ富永夫妻



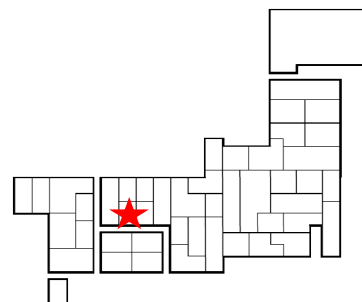
商工農福連携でサステナブルな未来を描く

ビジネス・イノベーション部門

農福連携

6次産業化

雇用



みはらし

広島県 三原市

【概要】

- オーナー不在のぶどう園を、リカレント教育受講を通じて関係構築した社会福祉法人と共に引き継ぎ運営。農福連携果実を加工し付加価値をつけて販売することで収益性を高め、活動をサステナブルとする商工農福連携活動を実施。
- 収穫したぶどうの規格外品をジャム加工しパンを販売する他、農福連携事業者から苺を調達して新たなブランド化を行うなどの取組も実施。

【成果】

- ぶどうの収穫量は、約4,000房（令和3年度）から約1万4,000房（令和4年度）に増加。また、売上高は、約400万円（令和3年度）から約800万円（令和4年度）に増加。
- 高校や法人関係者4者での連携協定を締結し、将来の福祉人材育成に貢献。



オーナー不在のぶどう園を再生



収穫したぶどうの加工品



2023年新ブランド「果実なくリーむパン」



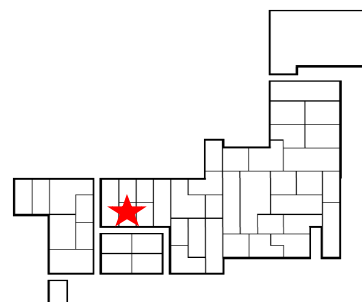
「ゆめ」をつめて「まち」をひとつに

ビジネス・イノベーション部門

6次産業化

地産地消

企業との連携



みはらし
広島県 三原市

【概要】

- 地域の海・山・里の豊富な食材を一つの取組に巻き込むコンテンツとして「プリン」に着目。「デザート」と「デリカ（惣菜）」の2カテゴリーのプリンを活用した官民連携のまちおこしを実施。
- 1次生産者等の所得向上や地域内消費の拡大、食の付加価値向上に向けて、広島みはらプリンの認定や催事への出店、販路開拓等を実施。

【成果】

- 催事及びJR三原駅構内での売上は、約10万円（令和3年度）から約1,300万円（令和4年度）に急増。参加店舗での店頭販売やECサイトでの販売実績を含めると、2,600万円（令和4年度）の経済消費を創出。
- 参加店と連携して冷凍プリンの開発や冷蔵での日持ち化を進め、首都圏での長期催事を可能とした他、ふるさと納税の返礼品としても販路拡大。



広島みはらプリンのロゴマーク



各種催事では約15～20個のプリンを販売

年2回発行するガイドブック「おいかけプリン」



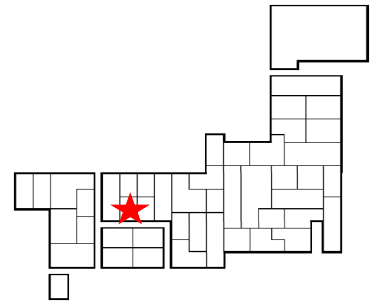
地域の猪の有効活用と、地域の課題解決

ビジネス・イノベーション部門

ジビエ

鳥獣被害防止

女性の活躍



じんせきこうげんちょう
広島県 神石高原町

【概要】

- 有害駆除される猪の9割が埋却されるなど、捕獲後の処理が課題となっていた地域で2箇所の処理施設を新設。止め差し・搬出・行政への報奨金申請まで一貫して対応し、高齢狩猟者の負担軽減、若手狩猟者の獲得及び命の有効活用に取り組む。
- 個体判別により食肉用とペットフード用に分けることで顧客満足度を向上させ、地域のジビエ肉のブランド化やペットフードの輸出も視野に入れるなど活動を拡大。

【成果】

- 処理頭数は、約220頭（令和元年度）から約790頭（令和4年度）に増加し、地域全体の課題解決に貢献。
- 売上が、5万円（平成30年度）から約2,300万円（令和4年度）に急増。女性従業員の活躍により、ペットフード数は1商品（令和元年度）から12商品（令和4年度）に増加。



福山施設で焼肉用に処理された猪肉



神石施設でペットフード製造された猪肉



ペットフードプロモーション活動の様子



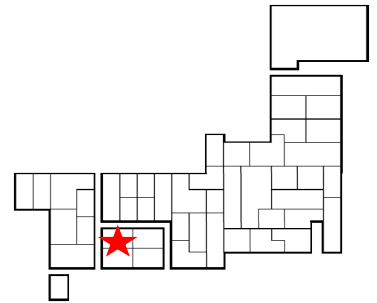
小さなしらすで地域を守る！

ビジネス・イノベーション部門

6次産業化

環境保全（農林水産業・食品産業）

食育・教育



いかたちょう

愛媛県 伊方町

【概要】

- フェリー乗客の集客やイベント開催で、地元の一次産品を発信する地域活性化活動、大学生と共同したしらすを有効活用した新商品開発の他、輸出拡大に向けた取組を実施。
- バイオプラスチックトレーへの切替えや地元漁協・ダイビングスクールと連携した藻場礁の設置実験等の環境保全活動、子どもたちへの食育活動を実施。

【成果】

- 売上高は、約11億円（平成17年度）から約82億円（令和4年度）に増加。また、伊方町観光交流拠点施設等の集客数は、約3万人（令和元年度）から約25万人（令和4年度）に増加。
- 輸出額は、約300万円（令和3年度）から約900万円（令和4年度）に増加。



しらすラーメンと愛媛大学生



しらす漁



食育活動：地元小学校が製造ラインを学習中

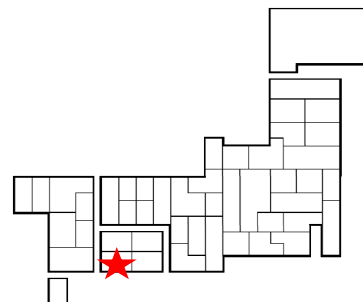


— 資源循環利用による持続的産業を目指して —

コミュニティ・地産地消部門

林業

環境保全（農林水産業・食品産業）



おおつきちょう

高知県 大月町

【概要】

- 地域に自然分布するウバメガシから備長炭を生産。貴重な資源であるウバメガシを将来に残すため、循環利用可能な山づくりや苗木づくり、植樹祭等の人と自然の共生社会づくりを実施。
- 地元小中高生への森林環境教育の継続的な開催のほか、育成した苗木を町有林に植栽することで資源循環利用による持続的産業を実現。

【成果】

- 資源循環利用のための活動を付加価値として備長炭の価格向上に繋げ、備長炭生産者や原木の伐採を担う森林組合・自伐林家の所得向上に貢献。
- 資源量を考慮した備長炭生産を行いながらも、平均約5,700万円（平成30年度～令和4年度）の売上を維持。



「植樹祭」



「山づくり」択伐



小学校での「製炭学習」



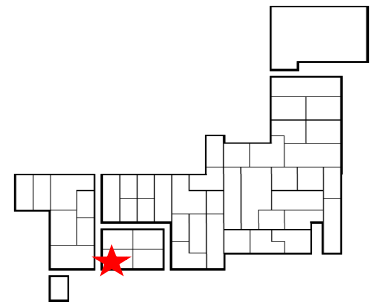
— アート・スポーツ・防災×農山漁村で活力を —

ビジネス・イノベーション部門

多様な分野との連携

農泊

関係人口の創出



くろしおちょう

高知県 黒潮町

【概要】

- 4 kmの砂浜を美術館に見立て、四季折々のアートイベントを開催。町外からの運営ボランティアの宿泊と食事は、中山間地域にある集落活動センターと連携し、地元住民と交流。
- 砂浜に隣接したスポーツ施設を活用して合宿や大会を開催し、宿泊・弁当等を手配。また、南海トラフ巨大地震の津波予測をきっかけに防災学習プログラムを開発し、主に中高生の教育旅行を受入。

【成果】

- スポーツツーリズムでの宿泊数が、約1.2万泊（平成30年度）から約1.4万泊（令和4年度）に増加、防災学習プログラム体験者数は、4人（平成30年度）から約400人（令和4年度）に増加するなど、関係人口創出に寄与。
- 大学と連携した黒潮町産業連関表の作成により地域経済の現状を可視化。経済効果が約240万円（平成23年）から約1.3億円（令和4年）に増大するなど、砂浜美術館を核とした新しい経済循環づくりに貢献。



Tシャツアート展



ボランティアスタッフと地域住民の交流



海の脅威を学ぶ・防災学習プログラム

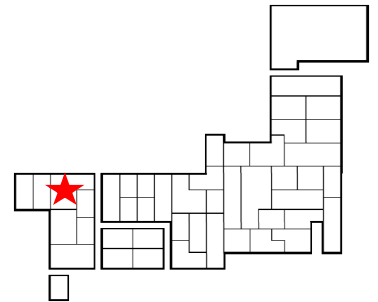


かまど炊きごはん一筋15年

コミュニティ・地産地消部門

地産地消

伝統の継承



ちくぜんまち

福岡県 筑前町

【概要】

- 直売所・町産米や大豆の加工所・農村レストラン・弁当工房を運営。競争を意識して「ここにしかないもの」にこだわり、レストランでのかまど炊きごはんの提供の他、かまど炊きごはんと伝統食が入った弁当の製造販売を実施。
- 町産のくず米有効活用のため、パン工房にて米粉パンや米粉ピザの製造を実施。米粉パンは町内の幼稚園の給食にも使用。

【成果】

- 売上は、約7.2億円（平成30年度）から約8.2億円（令和4年度）に増加。売上の約2割をレストラン、弁当工房とパン工房の売上が占め、町産米の消費拡大に貢献。
- 地域農家から仕入れる弁当の材料代は、約450万円（平成21年）から約1,100万円（令和4年）に増加し、農家の所得向上に寄与。



かまど炊きの風景



みなみの里全景



手作り弁当



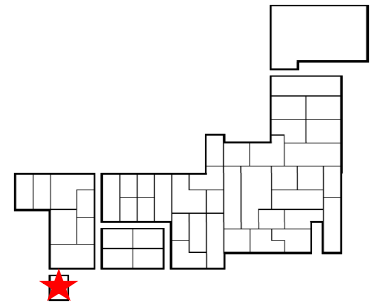
地域と共に6次産業化

ビジネス・イノベーション部門

6次産業化

地産地消

女性の活躍



いしがきし
沖縄県 石垣市

【概要】

- 耕作放棄地も活用して、乳用牛を100%自家生産の牧草で育成。
- 廃用牛の精肉としての利用や、地元農家と連携し、規格外果樹を活用したジェラートやジャム製造などの6次産業化により、豊富な地域資源を最大限有効活用する取組の他、女性の活躍推進、石垣島の知名度向上への取組も実施。

【成果】

- 暑さに強い牛群改良により、平均乳量が1頭あたり2t以上増加。
- 6次産業化により、店舗売上高が、約1.9億円（平成30年度）から約2.0億円（令和4年度）、来客数は、約20万人（平成30年度）から29万人（令和4年度）に増加。



優良な遺伝子の乳用牛

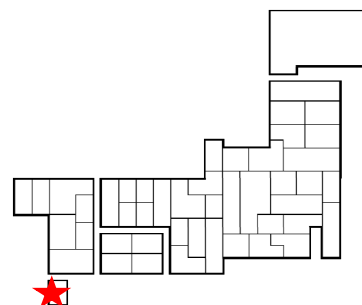




障害者や親が安心して住める地域社会へ

コミュニティ・地産地消部門

農福連携



みやこじまし
沖縄県 宮古島市

【概要】

- 農福連携により、作業の容易性・安全性に配慮した設備を導入した葉菜類の水耕栽培、ポットファームシステムによるメロン栽培を実施。
- 地産地消に取り組み、収穫物はスーパーやホテル、学校給食等に提供する他、規格外品はグループ内のレストランで活用。

【成果】

- 低コスト栽培等の工夫により収益を伸ばし、障がい者の1月あたりの賃金は、約8.7万円（平成30年度）から約9.9万円（令和4年度）に増大。周年で安定的な生産体制の構築により、雇用の安定化を実現。
- レストラン内にキッズスペースを設置し、地域交流の場を生み出すことで、多様性のある地域づくりに貢献。



作業効率・安全性を考慮した作業



ポットファームシステムによるメロン栽培



レストラン太平山店内



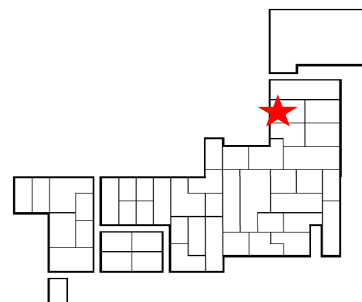
－ 仙北市グリーンツーリズム～農村でみんな笑顔に～ －

第10回記念賞

農泊

農村文化体験

関係人口の創出



せんぼくし
秋田県 仙北市

【概要】

- 第3回選定後、旅行業務取扱管理者資格の取得や地域限定旅行業の登録により、個人ではなく協議会としてワンストップサービスの体制を構築。任意団体から法人化。コロナ禍でも独自の感染症ガイドラインを作成し、万全の態勢で積極的に受け入れ。
- 様々な世代が楽しめるスノーシュー体験や電動キックボード等を取り入れて体験コンテンツの充実を図ったほか、「家族留学」を販売し交流人口の増加に取り組む。コロナ収束後の集客に向けて、農産物の物販事業も開始した。

【成果】

- 日本語と英語で制作したホームページで体験情報を提供し、リクエスト型で予約手配を実施することで、問い合わせが増加しており、ホームページ訪問者数は、約5,700件（平成30年度）から約40,400件（令和4年度）に増加。
- キャッシュレス決済の導入、地域の実情に精通するネイティブスピーカー2名の配置等により、農家民宿等外国人宿泊者数は、801人（平成27年度）から2,554人（令和元年度）に増加。コロナ禍で落ち込んだが、令和5年度は2,050人を見込む。



農家民宿でのFIT客滞在の様子



農家民宿等で収穫した農産物の詰め合わせ



学びと暮らしを体感する「家族留学」ツアー